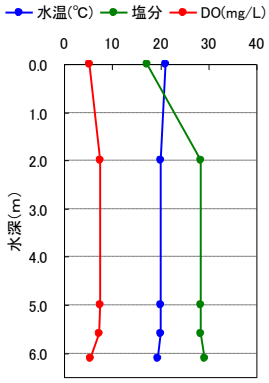
平成 27 年度　東京都内湾水生生物調査　5 月底生生物調査　速報

東京都内湾水生生物調査

※値・種名などは速報値であり、変更の可能性があります。

地点名	三枚洲（荒川河口）	調査年月日	平成 27 年 5 月 20 日　9:20　～　10:00

〈調査地点〉



〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉

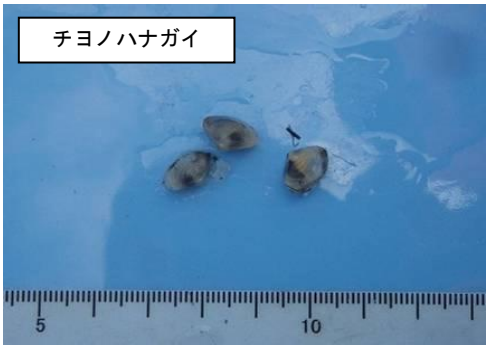
荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。調査時の水深は調地点の水深は6.6mで大潮の干潮時でも干出しない。

底質は砂混じりの泥で、臭いは通常の泥の臭いであり、硫化水素臭はしなかった。

底層水の溶存酸素は約 7.3mg/L と高く、貧酸素は発生していなかった。底生生物は比較的大型のホンビノスガイやチヨノハナガイ等が確認された。

〈主な底生生物〉

昨年度の同月の結果では、ハナオカカギゴカイ等が確認されている。



有機汚濁の指標種の一つとされている。成貝でも殻長約 2cm の、半透明の薄い殻を持つ小型二枚貝である。

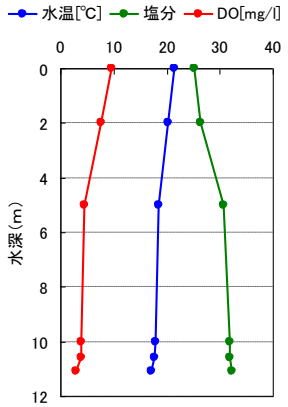
外来種、大型二枚貝。
貧酸素や低塩分など環境変動に強い耐性を有する。
食用にもなる。
底質が嫌気化（還元状態）しているため殻の表面が黒いが、溶存酸素の豊富な水につけておくと本来の色に戻るようである。

参考(本来の色)

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.6	調査年月日	平成 27 年 5 月 20 日　10:15　～　10:55

〈調査地点〉



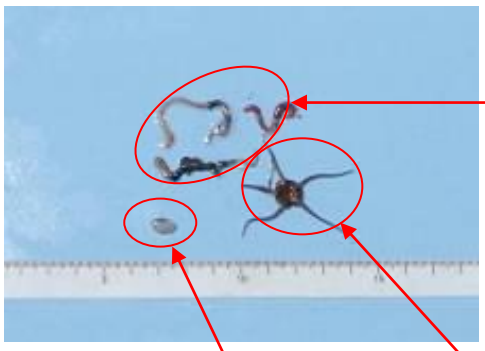
〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉

調査地点はフェリー埠頭と中央防波堤内側埋立地の間に位置する。水質環境基準点の一つで、赤潮の発生が著しい地点。

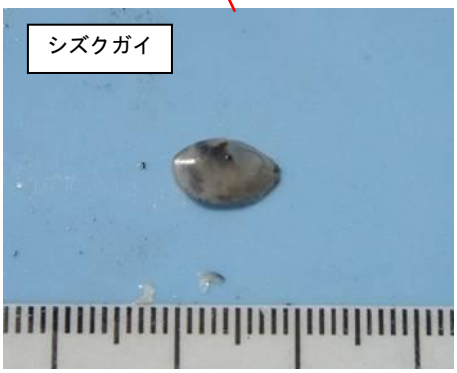
水深 11.6m で採泥。底質は泥混じりの細かい砂で、通常の泥の臭いだった。

底層水の溶存酸素は約 3.9mg/L であった。夾雑物は貝殻片が多く、底生生物はクモヒトデ類や多毛類等が確認された。

〈主な底生生物〉



肉眼での同定は困難である。当調査地点は本年度より新たに設定されたが、同様な環境の St.5 では、昨年度シノブハネエラスピオが確認されている。



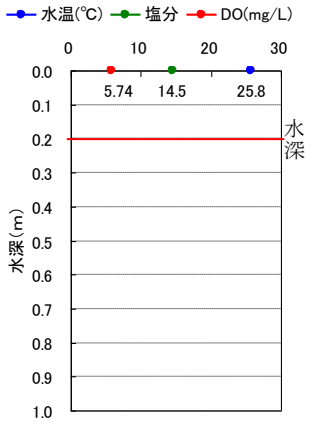
半透明の薄い殻を持つ小型の二枚貝である。チヨノハナガイ同様、有機汚濁の指標種の一つとされている。

クモのような動き方をするヒトデに似た動物。底泥中に生息し、底生魚類などのえさになる。

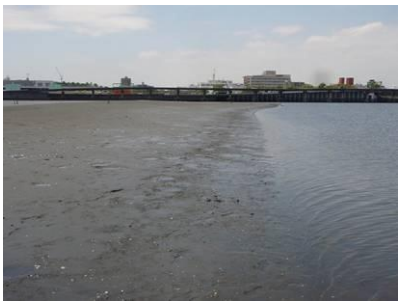
東京都内湾水生生物調査

地点名	森ヶ崎の鼻	調査年月日	平成 27 年 5 月 20 日　11:10　～　12:10

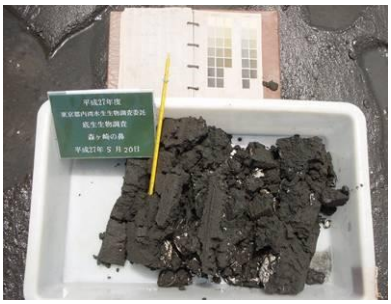
〈調査地点〉



〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉



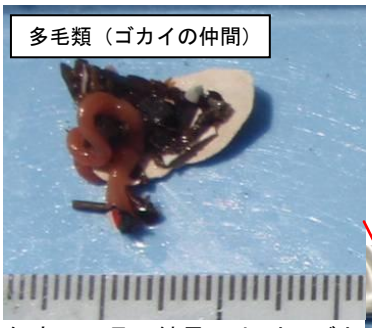
羽田空港の北側に残された天然の干潟。大潮の干潮時に近かったため、広く干出していた。



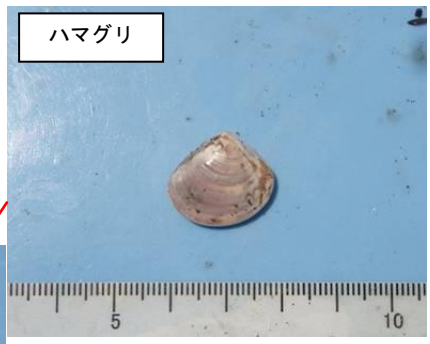
底質は砂で、臭いは無かった

フルイに残った試料。貝殻片が非常に多く、底生生物としては、アサリ、ハマグリ等が確認された。

〈主な底生生物〉



昨年度の同月の結果では、カワゴカイ属等が多数確認されたが、見た目では昨年度に比べ少ない様子。



東京湾では僅かではあるが稚貝の放流により増加している。東京湾では貝殻だけなら 10 cm近くある大きなものもみられる。

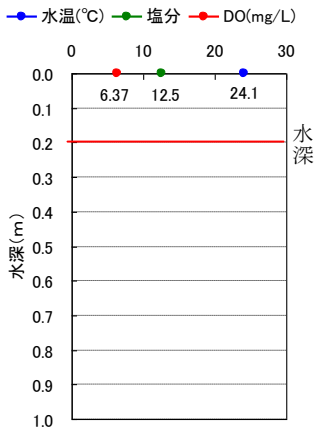
当調査地点では大小さまざまな大きさの個体が確認された。

当地点では、以前みたものより大きさが小さく数も少なかった。ヤマトシジミは多摩川河口部で近年増加傾向にある。

東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	平成 27 年 5 月 20 日　12:20　～　13:10

〈調査地点〉

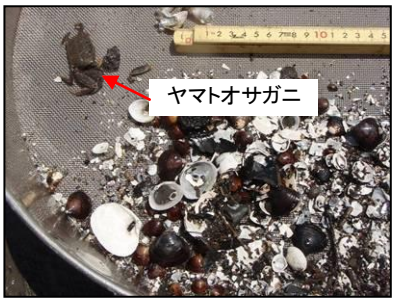


〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉

多摩川と海老取川の合流点付近に広がる干潟。当日はシジミを採る人が見られた。

底質は泥混りの砂で、やや粘性が高かった。

採取地点周辺には、カニの巣穴が多くみられ、大小多数のカニが確認された。



フルイに残った試料。昨年度より、ヤマトシジミが多く、ソトオリガイも確認された。また、甲殻類のヤマトオサガニも採取された。

〈主な底生生物〉

採取地点周辺に多数見られた。干潟の代表的なカニで、泥分の多い干潟を好み、巣穴を掘って生活する。

ヤマトシジミは多摩川河口部で近年増加傾向にあり、当日も潮干狩りを行っている人が見かけられた。

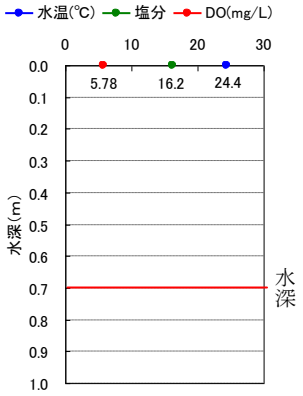
ソトオリガイの殻は薄いため採泥器で採取すると割れてしまうことが多い。

昨年度の同月の結果では、カワゴカイ属、ヤマトスピオ等が確認された。

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31（多摩川河口）	調査年月日	平成 27 年 5 月 20 日　13:15　～　13:55

〈調査地点〉



〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉

調査地点は多摩川河口部の川崎市寄り。工場の排水口の前面に位置し、水深 70 cmであった。干潮時には、川の中に立つことが可能なほど浅い。

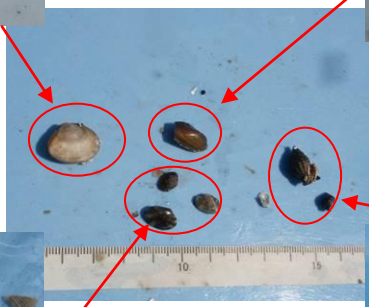
水深 0.7m で採泥。底質は砂で、臭気はなかった。

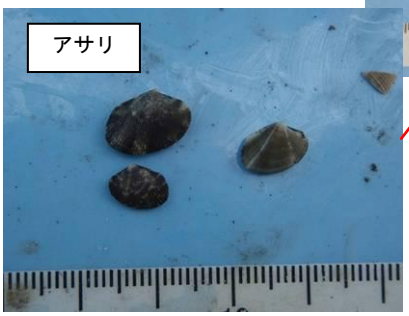
フルイに残った試料。貝殻に混じって、アサリ、ホトトギスガイ、アラムシロガイ等の小型の貝類が採取された。

〈主な底生生物〉

内湾の潮間帯付近の砂泥底に生息する。しばしば採取されるが、多量に確認されることは少ない。

砂泥底に足糸で砂を固めて、マット状の群体を作って生息するが調査地点では 1 個体確認されたのみであった。





アサリは小型の個体が少量採取されたのみであった。

干潟に生息する小型の巻貝。肉食性で魚類等の死体を捕食する。